

T I C A D 9 : 開会式
石破茂総理大臣スピーチ

アフリカ連合（A U）議長のロウレンソ・アンゴラ共和国大統領閣下、アフリカ各国を代表してお越しの首脳・閣僚の皆様、御列席の皆様。

6年ぶりの日本開催となる第9回T I C A D。ホスト国として皆様を歓迎できることを光栄に思います。

T I C A Dは、アフリカのオーナーシップと国際社会とのパートナーシップを基本理念としてきました。日本がアフリカの未来を信じ、このプロセスを開始したのは、1993年。冷戦終焉後、まだまもない時期でした。

しかし、日本とアフリカとの歴史を振り返れば、古くは16世紀の天正遣欧使節団にまで遡ることができます。キリスト教を信じる大名たちの名代として、4人の少年がローマに派遣されました。その帰路、モザンビークにも立ち寄ったと言われています。

1927年にガーナに渡航し、黄熱病の研究に取り組んだ野口英世博士もアフリカの課題解決に取り組む日本人のロールモデルと言えましょう。

私自身のアフリカとの関わりは、2000年に、セネガルを訪問した時に遡ります。当時、私は、今で言う農林水産副大臣でした。1995年にW T Oが発足し、日本の農産品市場への開放圧力が改めて高まる中、何とかして他の国との連携を強化できないかとパートナーを探している時期でした。

そして、私からセネガルの農業大臣に申し上げました。食料自給率の低い国同士、ぜひ協力しましょうと。W T Oの舞台で共闘しましょうと。しかし、セネガルの農業大臣にぴしゃりと断られました。確かに、両国は食料自給率が低い点では共通だが、その理由は全く異なる。日本は資金がある。だから、世界中から食料を買うことができる。セネガルは灌漑などの技術を導入した

くても、資金がない。だから、世界から食料を買わなくてはいけないだけなのだと。

相手のことを知り、相手に寄り添い、そして、共に解決策を創っていく。アフリカの発展のためには、現地に根ざした解決策が重要である。それを痛感する強烈な体験でありました。そして、これこそが今回のT I C A D 9のテーマでもあります。

課題解決策の共創に当たり、今回のT I C A D 9では、民間セクターの持続的な成長、若者・女性、地域統合及び域内外の連結性という3つの重要分野に焦点を当てたいと考えています。

まず、民間セクター主導の持続的な成長。官民が連携し、民間主導の投資を強化していきます。A I、D X、G X、衛星データの活用等、日本企業の技術、知見を活用し、課題解決策を共に創り上げていきましょう。

と抽象的なことを言っても、伝わらないですよ。例えば、デジタル技術を活用して、精緻な信用分析を行い、今まで金融サービスへのアクセスが難しかったタクシードライバーにローンの機会を提供するのはいかがでしょうか。真面目に働くドライバーさんは、ローンを活用して、中古車を買上げ、そして返済に努める。デジタル技術によって、誠実な努力が報われる社会の構築と一緒に取り組みたいと思います。

課題解決は一方通行ではありません。日本の課題を解決するために、アフリカのお力も貸していただきたいと思います。長崎県に五島列島という、複数の離島から成る地域があり、そこでは医薬品の配送にドローンが活用されています。では、そのドローンの実証実験が行われたのはどこであったか。そう、ルワンダになります。ルワンダの方々の協力があってこそ、少子化、過疎化という日本の課題を一つ解決することができたのです。

このように、アフリカではスタートアップを通じた新しいサービス、新しいビジネスが勢いを増しています。しかし、増えていく若い人たちの潜在力を発揮してもらうには、雇用を創出する産業、製造業を育てていくことが課題になります。

アフリカの製造業の生産性を向上させるため、日本はチュニジアでカイゼンの考え方の研修を始め、今やアフリカ41か国に普及させています。カイゼン・トレーナーは1400人に達し、28万人の雇用を生む18000社の生産性向上に貢献しています。このカイゼンにより、企業の生産性が6割以上向上したと報告されています。

こうした取組に加え、日アフリカ間の産業エコシステムを育て、大きくしていきます。アフリカのスタートアップと日本企業が共に産業を興す「日本アフリカ産業共創イニシアティブ」を進めています。

金融面では、日本とアフリカ開発銀行の協調枠組みである「アフリカの民間セクター開発のための共同イニシアティブ」の機能を強化し、最大55億ドルに拡充します。

JICAの海外投融資を触媒とした官民総額15億ドル規模のインパクト投資を動員します。貿易保険を最大限活用してビジネスリスクも低減させます。

債務問題への対処は、持続的な成長に不可欠です。債務措置に係る共通枠組の実施改善や債務透明性の向上に向けて、日本は引き続き主導的役割を果たしていきます。

二つ目は、若者と女性についてです。

先ほどの私のセネガル訪問の話に戻ります。せっかくダカールを訪問したので、アフリカ大陸の最西部にあるマメル灯台にも立ち寄ることにしました。すると、女子学生の一団がいらっしゃいました。現地の大使の計らいもあり、即席の車座対話になりました。そして、私から学生さんたちに、何げなく将来の夢を聞いてみました。すると、彼女たちは、目をキラキラと輝かせながら、お医者さんになりたい、学校の先生になりたいと、将来のビジョンを熱く語ってくれたのです。この時に確信しました。こうした若者がアフリカの輝かしい未来を作るのだと。そして、今や、その確信は現実のものとなりつつあります。

人口の年齢の中央値が19歳であるアフリカには、若者の活力が溢れています。アフリカが次の成長センターとなるための鍵は、若者と女性の能力強化と雇用確保を進めることです。

こうした認識の下、今後3年間で30万人の人材育成を実施します。例えば、東北大学で研鑽し、TIME誌のAI領域で最も影響力のある100人に選出されたペロノミさんのような優れたAI人材の育成を後押しします。「AI・データサイエンスの人材育成とアフリカの経済成長イニシアティブ」を通じ、アフリカのAIに関する産業人材を3年で3万人育成します。

また、日本は、「アフリカ保健投資促進パッケージ」に基づき、アフリカの保健分野への投資を呼び込んでいきます。今年日本に設立するユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）ナレッジハブや3万5千人の保健医療人材の育成はアフリカ各国のUHC実現に貢献するでしょう。Gaviワクチンアライアンスへの今後5年間で最大5.5億ドルの貢献等を含め、アフリカにおけるワクチン供給を支えていきます。

人作りの一番の基盤となる教育分野では、1000万人の子どもの学びの改善や、15万人の高度人材の育成を行います。

三つ目に、地域統合と域内外の連結性についてです。アフリカ各国の一層の成長のためには、産業力強化に加え、国を超えた地域統合や連結性の強化が必要です。

アフリカの地域統合を強化すべく、アフリカ大陸自由貿易圏の実施促進を後押しします。日・アフリカの産学官の代表から成る日アフリカ間の経済連携強化に関する検討委員会を設置します。

日本は、これまで白金の多くをアフリカから輸入してきましたが、今後も、ハイブリッド自動車や電気自動車に活用される銅やコバルトなどを含め、アフリカの豊富な資源が安定して供給されるよう、「R I S E」パートナーシップ等の協力を拡大していきます。

また、鉱物資源の供給強化にもつながるナカラ回廊の物流を促進し、地域の産業振興を併せて進める広域オファー型協力を新たに立ち上げます。

アフリカと域外との開かれた連結性強化も重要です。アフリカとインド洋地域の貿易・投資の活性化、アフリカの域内統合・産業発展に資する「インド洋・アフリカ経済圏イニシアティブ」を立ち上げます。

平和と安定、経済成長、包摂的な社会は、相互に結びついています。日本はアフリカにおける平和、成長、安定の好循環を実現すべく、ソマリア支援安定化ミッションへの拠出、「アフリカ地雷対策プラットフォーム」や女性・平和・安全保障（W P S）の推進などを通じて、アフリカと共に取り組みます。

今やアフリカは、責任あるプレイヤーとして世界秩序の形成に参画しています。国際社会においてアフリカ諸国の声が一層反映されるような責任あるグローバル・ガバナンスの構築に日本はアフリカと共に取り組

みます。

アジェンダ 2063 の目標にも含まれる法の支配やグッド・ガバナンスの強化に向け、アフリカ諸国と協力していきます。

日本は、人間の安全保障の理念に基づき、SDGs 達成に向けた取組を進めます。

国連創設 80 周年を迎える本年、日本は国連安保理改革の具体的進展に向け、アフリカ諸国と共に行動していきます。また、日本は T I C A D 6 で提唱した法の支配に基づく「自由で開かれたインド太平洋」の推進でもアフリカと協力していきたいと考えております。

これからは、アフリカ発のソリューションが、日本を含む国際社会を救う時代です。日本は、アフリカと共に歩み、解決策を提供し合う信頼できるパートナーであり続けたいと願っています。有言実行の証として、今回 300 件以上の協力文書が結ばれたことを報告します。日本はアフリカの未来を信じ、アフリカへの投資を推進します。

「教えに来たのではありません。習いに来たのです。」

冒頭で紹介した、中南米やガーナで黄熱病研究に取り組んだ野口英世博士の言葉です。野口博士は、「現場主義」を貫き、アフリカから学び、ガーナの現場で課題解決に取り組みました。これは、100 年前の課題解決策の共創と言えましょう。21 世紀の今、日本と、ここにお集まりのアフリカのリーダーたちが一つになり、革新的な課題解決策を共創して、アフリカと世界が直面する課題に立ち向かっていこうではありませんか。

御清聴ありがとうございました。